

平成 30 年度 第 5 回 学校運営協議会記録

	学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	平成 31 年 2 月 6 日 (水) 9 時 40 分～11 時 30 分	
協議内容 委員発言内容 等	<p><校内一巡（授業参観）> 1 年生から 6 年生までの授業と特別支援学級の授業を参観していただいた。また、廊下等にある掲示物についても説明し、今までの取組も見ていただいた。</p> <p><会長あいさつ> E 委員：小正月行事が県内各地で行われるが、男鹿市も 2 月になまはげ柴灯祭りが行われる。ユネスコ無形文化遺産登録になって初めての祭りとなり、市民にも新たな気持ちで迎え入れようとする誇りが出てきているのではないかと思う。今回は、5 回目の最後の協議会になるが、皆さんの活発な意見交換をお願いしたい。また、これからも子どもと地域のコミュニケーションをさらに深めて、地域を PR していきたい。</p> <p><今年度を振り返って（学校関係者評価と意見）> ○学習指導について H 委員：今日の授業を見ていて、学年が進むにつれて授業も落ち着いて行われていた。自分の子どもをみても、高学年になるにしたがって、家庭学習も定着している。スポ少などの活動があっても、練習の前後に自主的に家庭学習を行っている。それから、廊下に他の子どもたちの頑張りが見られる環境づくりが行われていてとてもよいと感じている。他の人のノートを見る機会があれば、子ども自身が見ると自分との違いが見えてきて良い。先生たちの指導の工夫がよく分かった。 B 委員：家庭学習ノートが良く書けている。ノート展は子どもたちのいい刺激になると思う。 A 委員：授業を参観してみると、どの教室も先生と子どもたちの雰囲気が良い。積極的に勉強しようという気持ちを感じられた。 F 委員：子どもの数が減っているから困るのではなく、今日の授業を見ると少ないなりの良さを感じることができた。考えようによっては、いい面もあると感じた。 E 委員：今日の授業は、子どもたちに元気があって、先生とのコミュニケーションがとても良かった。テストではどうか分からないが、学校を嫌がらないで学校に登校できるようにしてほしい。</p> <p>○生徒指導について B 委員：不登校児童数が 0 であることはとても良い。家庭学習の取組とも関連があると思うが、不登校は家庭生活にもつながって</p>	

協議内容
委員発言内容
等

いると思う。不登校の原因として、家庭問題の場合が多い。

C委員：グループでの仲間はずれが原因の場合もある。幼稚園や保育園から来た子どもたちが小学校に入ったとたんに戸惑う場合もある。子どもは、途中で挫折するとなかなか立ち直れない。

A委員：低学年の子どもは家庭に原因がある場合が多いかもしれない。私も地域で登下校の子どもたちの朝の様子を気を付けて見ている。見守りだけしかできていないが、子どもたちの様子に変化がないかなど気を付けて見ることにしている。

C委員：かつて、いじめについて先生と相談したときに先生方はないと言っていたが、子どもに聞いたらあると言っていた時もあった。相互の関係が単純だと解決しやすいけれど、問題が複雑化している場合もある。

B委員：いじめや不登校について小学校で芽をもっていて、中学校で開く場合もある。小学校は担任がずっとついていて安心感もあるが、中学校では時間ごとに先生が代わるため、子どもたちが精神的についていけなくなることも考えられる。

C委員：小・中学校のスポ少や部活で救われる子どももいる。

H委員：子どもたちは、入学しても地域の壁はない。すぐに溶け込んで仲良くしていると思う。親の方は、統合の経緯もあるためか、何かと地区の話が出てくる。子どもには、仲間同士のトラブルについて自分たちで解決するような力を付けてほしいと思っている。人間なのでいじめ等に近いことは起こりえることだと思っているので、多少のことに対しては、自分で対処できるようにさせていきたい。

○健康・安全指導について

B委員：今日の授業を見ると、2年生は座り方にも気を付けさせている。背筋を伸ばすことはいいことだと思う。学校で気を遣ってやってくださっているのはありがたい。

F委員：資料を見ると歯科受診率が低いのが気になる。

A委員：親が働いているのも受診率が低い原因の一つになっているのではないか。

校長：学校歯科医が4月に全校児童の歯科検診をしている。要治療の場合はカードを保護者に渡して受診を勧めている。近くに歯科医もあるでの、受診してほしいと思っはいるが、なかなか受診率は上がっていない。先日、学校保健委員会を開催したが、学校歯科医によれば、美里小は全く虫歯のない子どもは増えているということだった。家庭の意識や取組が二極化しているのかもしれない。

H委員：学校給食センターの委員もやっているが、払戸小と美里小は児童数が同じくらいの規模であるが、給食の残量は圧倒的に美里小が少ないという話を聞いている。美里小はよく食べてくれるので、作っている方としては気持ちがいいと言っていた。もしかしたら、食べることで逆に肥満につながっているかもしれないが、食に関して興味はあるようだ。給食を楽しみにしていることはいい傾向にあると思う。

E委員：運動不足と関わると思うが、学校の施設を利用してスポ少の活動を行っているのは、野球とミニバスだと思うが、水泳と

協議内容
委員発言内容
等

か個人的なものについて学校で把握しているものなのか。

校 長：学校保健委員会で、体育の先生がまとめた結果を発表していたが、全校の半数近くが加入していたということだった。逆に、残り半数近くは何もやっていないということになる。

F 委員：今日の授業はみんな元気一杯だったが、資料をみると上学年の半数が体力に自信がないと答えているのが気になった。

校 長：校内マラソン大会や市小学校陸上大会を見ると苦しそうに走っている人は多い。市陸上大会では、他校と比べ後ろの方で走っている子どもたちも多かった。

A 委員：旧五里合小は、みんな数キロメートルも歩いて通学していた。その時は陸上大会の記録も良かった。毎日歩くことは子どもの体力作りのためにはいいと思う。

B 委員：中学校もスクールバスを使っている。自転車で通ってもいい地域の子どももほとんどの親が車で送っている。

○地域連携と学校公開について

A 委員：地域を十分活用しているのではないか。

E 委員：ここの地域は農業を中心に栄えてきている。梨や田植えなどの農業体験があって良かった。第1次産業は環境を守り、食料を支える大事な産業であることを小学生の頃から教えたい。また、海岸クリーンアップ活動も環境を守り、地域の特長が出るとてもよい取組だと思う。この後も、継続してほしい。

<学校保健委員会資料から>

校 長：前回の学校運営協議会で、子どもたちの体力や肥満の話が出たため、ちょうど学校保健委員会で配付した資料があったので、参考にしてほしい。

<情報交換>

E 委員：首都圏では、学童について待機児童も多いという話もあるが、この地区の学童に行っている子どもは何人くらいいるものなのか。また、何か要望等はあるものなのか。

教 頭：五里合学童は、平日は利用児童いないため閉鎖している。長期休業や休みに日は数名利用している。美里学童は、20数名の利用があるが、曜日によって利用者は変動している。野石学童は、学校からバスで直接行く子どもが10数名いる。学童への要望は、学校としては把握していない。

校 長：今日の授業参観で見ていただいたように、委員の皆様のおかげで、今年度は、全員元気に楽しい学校生活を送ることができた。この後も、引き続き、子どもたちを見守っていただきければありがたい。